

# 人として

## 生きるエネルギーを 与えてくれる国民的女優

女優・歌手・声優

倍賞千恵子さん

2024年の7月6日、倍賞千恵子さんは和歌山県民文化会館で、とてもすてきなステージを繰り広げました。毎年開かれる「わかやま寅さん会」で「倍賞千恵子コンサートwith小六禮次郎」を開催。少女時代の歌手デビューの模様から始まり、山田洋次監督の主演作『下町の太陽』予告編の上映に合わせて同曲を聞かせ、『男はつらいよ』はもちろん、『幸せの黄色いハンカチ』『駅 STATION』などの作品の名場面を見せながら、そのエピソードを語り、夫である小六禮次郎さん（作曲家・編曲家）とのかけ合いと共に、そのピアノ伴奏で多彩な楽曲を熱唱しました。

その内容は、松竹（株）などの協力も得て成立したもので、これが初披露となり、聴衆を喜ばせ、感動させました。この評判はたちまち全国へと伝わり、「ぜひ、うちでも！」という希望が各地から寄せられています。

松竹音楽舞踊学校を首席で卒業して松竹歌劇団で活躍。1962年に『下町の太陽』が大ヒットし、レコード大賞新人賞を受賞（翌年に映画化）。それ以降は、山田洋次作品に欠かせない国民的女優となっているのは衆知の通りです。

2022年の主演作『PLAN75』（脚本・監督：早川千絵）では、高齢化社会の生き方を鋭く問いかける物語で、凛とした品格ある主人公



を演じ、絶賛されました。

倍賞さんは「最初は“ひどい話だな”と思って脚本を読み始めたのですが、物語の終盤で、主人公ミチがある選択をし、空から太陽の光を浴びるシーンが描かれており、そこにものすごく心打たれ惹かれて、それだけで出演を決意しました。この物語のような社会があつてはならないと思うし、決して良いことではありません。みなさんにも、この映画を観ながら、自分の命や愛、生活など、いろんなことを考えていただきたい。きっと、これから的人生に役立つでしょう」と語っています。

映画でもステージでも見せるパワーと情熱は本当にすばらしく、80代とは思えない（失礼！）魅力は、高齢者（のみならず幅広い世代）に、生きるエネルギーを与えてくれます。

（取材・文 映像プロデューサー 中橋真紀人）

ばいしおう ちえこ／1941生まれ。東京都出身。1969年映画部門では4人目の芸術選奨文部大臣賞を受賞。2005年紫綬褒章、2013年旭日小綬章、2021年第93回日本アカデミー賞優秀主演女優賞をはじめ、数々の賞を受賞。映画『男はつらいよ』のさくら役に代表される庶民派女優として、また歌手、声優としても親しまれ活躍中